



# 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（社会） 指導者名 （長塚佐知子・井上弘子）

## 生徒の状況・課題の分

<p>(第1学年)</p> <p>世界地理の学習を多く、興味をもつ機会が少ない。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>メカニクスに取扱いが、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>インストラクターの指導が、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>取り扱った学習内容を、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>1学期の小テストで、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>だが、多くの生徒が、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>様々な取り組みを行い、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>地域の取り組みを行い、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>1学期は、日本の地理の学習を多く、興味をもつ機会が少ない。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>地理の学習を多く、興味をもつ機会が少ない。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>歴史の学習を多く、興味をもつ機会が少ない。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>因果関係が、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>関係が、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>は、多くの生徒が、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>きりしうの傾向が、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>りしうの傾向が、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>授業の傾向が、生徒の理解が浅い。授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>	<p>おむね、意欲的になり、授業展開の中で、資料活用が課題となっている。</p>

## 教科の目指す育てたい力

様々な社会的事象について、課題意識をもって自分の意見を表現できる力

## 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べ学習の際に、どの資料を使うかなどの指示を口頭だけでなく、視覚的に示しつつ、机間指導の回数を増やす。</li> <li>・ 忘れ物に関して、授業前に道具を机に出してチェックするなど意識付けをする。</li> <li>・ 授業展開の中で資料活用場面を多く取り入れる。教科書や資料集のグラフをアクティブボードで投影し、一緒に読み解く時間をつくる。</li> </ul>
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料やグラフ、表に慣れさせる。授業の中で取り上げる資料やグラフからわかること、何を表現しているのかなど、考え発表できるように工夫する。また、丁寧に解説もしていく。</li> <li>・ 地理は地域経済と密接な関係にあることに気付くよう写真資料など工夫する。</li> <li>・ 基礎基本を身につけるため、引き続き小テストを2～3週間に1度は実施していく。</li> </ul>
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の定着を図るためのプリント学習や、小テストや年表を掲示することと、学力の定着と学習意欲の向上を図る。</li> <li>・ 授業展開の中で資料活用場面を多く取り入れる。教科書や資料集のグラフをアクティブボードで投影し、一緒に読み解く時間をつくる。</li> </ul>

平成30年度

## 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（ 数学 ）

指導者名（石鍋慶文・稲江紀行・勅使川原貴澄・橘智子）

### 生徒の状況・課題の分析

（第1学年）

集中して授業に取り組んでいる。ノートの取り方や式の書き方についても着実に身につけてきている。また、小テストや、単元テストにも意欲的に取り組んでおり、受け方についても、時間いっぱい見直しを行うなど、計算ミスを無くそうとする努力も見られる。一方で、それぞれの取り組みに対して、不十分な生徒も一定数いるため、机間指導や、個別対応等により、継続的な指導が必要である。

（第2学年）

計算に課題がある生徒が見られたが、計算コンテストの対策や実施を通して、技能の向上ができた。それに伴い、授業内容の基礎基本の習得にも向上が見られる。授業には集中して取り組んでいるが、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多いため、知識や技能の定着に課題がある。

（第3学年）

まだ家庭学習の面で習慣化されていない生徒が見られ、基礎基本の内容が不十分な生徒も一定数いる。そのため、学年内の学力差が大きい。また、問題演習を努力して取り組むことができるようになってきているが、なかなか自信をもって自分の考えや解き方を発表し、説明することを苦手としている。1学期は計算がメインの授業が多く、個人練習が多かったため、なかなか話し合いの場面をもてなかった。

### 教科の目指す育てたい力

- ・自ら学び、自ら考える力をつける
- ・基礎的、基本的な知識。表現処理能力を活かし、応用力を身につける。

### 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

（第1学年）

アンケートより、発言や話し合いが積極的にできていないとの回答が一定数見られた。授業での発問の工夫や、話し合いの機会を十分に設定するとともにその土台となる基礎的、基本的な知識の定着を徹底する。具体的には、生徒の理解状況に合わせて、適宜、放課後や朝の補習を設定し、反復練習→解説を行うことで、生徒の基礎基本の定着を目指す指導を行う。

（第2学年）

計算コンテストで成果が見られたため、今後も実施をする。家庭学習の習慣を身につけるため、単元テストの回数を増やし、そのための対策と事後の補習を行う。授業内で、グループ学習など、自分の意見を言える機会を増やしていく。

（第3学年）

従来の単元テストの回数を増やすことで、さらに基礎基本の内容の定着を進めていく。また、関数の数や図形単元において、単元の後半の授業において、複数の考え方を設け、個人で解くだけでなくグループで解く場面や、どう解いたかを説明し、意見を共有できるようにすることで自分の考えに自信をもてる生徒を育てる。

## 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（理科） 指導者名（渡辺直樹・宮崎靖子）

## 生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学に対する関心が高く、授業に集中して取り組むことができる。一方で、基礎的な内容が定着していない生徒も見られる。</li> <li>・実験・観察には積極的に取り組む生徒が多い。実験器具の正しい使い方が定着していない生徒が見られる。</li> <li>・実験・観察の結果や考察を文章で表現することに、苦手意識をもつ生徒が少なからずいる。</li> </ul>
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する関心・意欲に個人差があり、授業に対する理解度も個人差が大きい。</li> <li>・実験では、内容を理解しないまま進めているや実験器具の取り扱いに不安な生徒が多数いる。</li> <li>・実験・観察には積極的に取り組む生徒が多いが、受け身の生徒が多く、指示がないと動けない生徒が多い。また、実験器具の操作が不安な生徒が多数いる。</li> <li>・実験・観察の結果や考察を、説明することを苦手とする生徒が多い。</li> </ul>
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣がなく基礎的な内容が定着していない生徒が少なからずいる。</li> <li>・実験・観察には積極的な姿勢を示すが、目的や操作の意味を理解しておらず、失敗してしまう班がある。</li> <li>・文章を読んだり、文章で表現したりすることが苦手な生徒が多い。</li> </ul>

## 教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察を安全に行うための技能や自然事象に関する知識</li> <li>・実験・観察の結果や自然事象を客観的に表現し、考察する力</li> <li>・協力し、互いに学び合う姿勢</li> </ul>
--

## 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめに小テストを行ったり、宿題を出し、定着度をはかる。</li> <li>・実技テストを行い、実験観察が安全に行えるようにする。</li> <li>・実験・観察の結果はタブレット端末などを用いて、表現したり、考察したりする機会を多くする。</li> </ul>
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活で利用されているものを具体的に取り上げ、生徒の興味関心を引き出す。</li> <li>・実験開始前に、実験の意味や進め方を丁寧に説明し取り組ませる。</li> <li>・実験結果を考察させ、生徒に発言を促したり、文章として表現させる。</li> <li>・話し合い活動をし、発表、説明する場面を多くする。</li> </ul>
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年の復習問題を週に1回取り組ませる。</li> <li>・実験・観察の目的をていねいに確認し、実験・観察の操作をデジタル教科書などの動画教材を利用して、理解させる。</li> <li>・実験・観察の考察では、班で文章を考え、発表し、情報共有を行う。さらに個人でも考察を文章で書かせる。</li> <li>・実験・観察の結果はタブレット端末などを用いて、表現したり、考察したりする機会を多くする。</li> </ul>

## 授業改善推進プラン

教科名 ( 音楽 ) 指導者名 ( 阿部 暁 )

### 生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのクラスも落ち着いた態度で、前向きに授業に参加しているが、教科書を理解するための読譜力や基礎知識が十分に身につけていない。そのため歌唱活動には比較的積極的であるが、リコーダーや鑑賞など、基礎力が不足していると参加しにくい題材に対して苦手意識をもっている様子である。</li> </ul>
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね落ち着いた態度で授業に参加できているが、教科書を理解するための楽典などの基礎知識の定着にばらつきがあり、曲の構成や形式の理解に関する単元に対して苦手意識をもつ生徒が多い。またソルフェージュや合理的な発声など、基本的な技能に課題があるも見られる。</li> </ul>
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのクラスも前向きな態度で授業に参加している。教科書を理解するための予備知識が十分でない生徒も見られるが、学ぼうという姿勢は見られる。より良い発声を身につけて歌いたい、と意欲的な姿勢の生徒も多数見られる。</li> </ul>

### 教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導した楽曲にとどまらず、自ら楽曲の構成を分析し、演奏を工夫できるようにするための基礎力</li> <li>・歌唱、リコーダーなど授業で扱うものだけでなく、自ら音楽を楽しむことができるようになるための基礎的な知識や演奏技能</li> <li>・ジャンルを問わず、音楽を主体的に鑑賞するための基礎知識</li> </ul>
--

### 授業改善推進プラン (課題解決のための具体策)

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初歩的なソルフェージュや音楽の諸要素についての復習を常時活動として進めることで、学年に応じた基礎力を身につけさせる。</li> <li>・感覚だけに頼った演奏で満足させることなく、具体的な技術向上につながる知識を指導することで、生徒が自主的により良い演奏を目指して努力ができる態度を身につけさせる。</li> </ul>
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎の復習を常時活動として取り入れることで、すべての生徒が2学年の学習内容を習得することを目指す。さらに楽典等の既習事項を授業に取り入れる。</li> <li>・音楽の諸要素や構成の面白さに気づき、自ら表現の工夫ができたり、合理的な発声で豊かな歌唱活動ができたりする発展的な能力が身につくような指導を工夫する。</li> </ul>
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎の復習を常時活動として取り入れることで、すべての生徒が3学年の学習内容を習得することを目指す。さらに楽典等の既習事項を授業に取り入れる。</li> <li>・音楽の諸要素や構成の面白さに気づき、自ら表現の工夫ができたり、合理的な発声で豊かな歌唱活動ができたりする発展的な力が身につくような指導を工夫する。</li> <li>・比較的少人数クラスである利点を生かし、合理的な発声で自信をもって歌うことができるよう、個別指導を行う。</li> </ul>

## 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（ 美術 ） 指導者名（ 鯨井靖子 ）

### 生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <p>図工から美術への切り替えて、色彩など専門的な知識の学習に戸惑いを感じながらも、授業の取り組み方や課題に対して、積極的に取り組む姿勢がみられ、興味関心をもって授業に臨んでいた。物を見る力、表現力などは不十分などところがある。一方、基本的な技法、道具の使い方の指導を繰り返し行うことで、基礎的な知識や基本的な技術を理解し制作しようとする姿勢が見られるようになった。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>授業で使う道具忘れやプリント忘れ、提出物等、基本的な取り組みが十分でない生徒がみられる。また、課題に対して積極的に取り組む姿勢がみられ、より高いものを求める姿勢や丁寧な作業する習慣がまだ不十分など面はあるが、課題を理解して作業しようとする姿勢は見られるようになった。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>知的好奇心が大きいと感じられる生徒が多い。興味関心をもって授業に臨み課題に対して積極的に取り組む姿勢がみられる。授業規律も確立しておおろり、友達の作品について積極的に良さを伝えられる。反面、技術面におおろいて基礎的な経験不足がみられる点と、発想を求む場面での戸惑いがみられるが、課題を理解しようとする姿勢や高いものを求めようとする意欲は多く見られる。</p>

### 教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら創造し、発想する力</li> <li>・基本的な美術の知識や発想力を応用できる力</li> </ul>
---

### 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>(第1学年)</p> <p>発想力を育てながら、よりよい表現のために基礎知識、技法などを積極的に学ぼうとする姿勢をさらに育てていく。友達の作品を相互評価し、言葉にしていくことで、物を見る目を養い、表現力の多様さや気づかせる意欲を育てていく。また、プリントの活用と自己評価をすることで学習の目標を明確にした授業を展開していく。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>授業準備不足に対しては学習・作業の基本であることを継続して指導していく。</p> <p>全ての生徒が関心・意欲を高めていけるようにICT等を活用し、身近にある美術を利用した導入を工夫していく。</p> <p>創作活動に消極的な生徒に対してはプリント等で授業における自分を振り返られるような工夫をし、困っていることや難しいところなど個別に指導できるようにしていく。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>経験不足を補うべく、年間指導計画において様々な美術的な経験ができるように改善する。また、発想力育成に工夫を凝らす。また、表現活動の振り返りや、個々の発想を共有し、お互いの作品を鑑賞し、互いの作品のよさを認め合う。また、表現活動の振り返りや、個々の発想を共有し、お互いの作品を鑑賞し、互いの作品のよさを認め合う。</p>

# 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（保健体育） 指導者名（山内卓司・西戸憲太郎・吉田三四郎）

## 生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年) 授業への興味・感心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。</p>
<p>(第2学年) 授業への興味・感心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。</p>
<p>(第3学年) 授業への興味・感心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出し、準備体操を高く行え、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。</p>

## 教科の目指す育てたい力

<p>○運動を通して充実感を味わい、自ら進んで運動に親しむ習慣を育てる。 ○継続的に補強運動により、体力の向上を図る。 ○運動や健康・安全についての知識を深め、日常生活にいかす力を育てる</p>
---

## 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>(第1学年) ・自らの課題やチームの課題を発見し、解決できるように話し合いの時間を多く取り入れていく。その際に掲示物やタブレット等を活用したり、運動の得意な生徒が苦手な生徒に助言したりすることで、話し合いがより活発になるように工夫する。 ・話し合いの際に、司会の生徒を授業ごとに替えることで、全員が話し合いに参加する意識を高める。</p>
<p>(第2学年) ・自らの課題やチームの課題を発見し、解決できるように話し合いの時間を多く取り入れていく。その際に掲示物やタブレット等を活用したり、運動の得意な生徒が苦手な生徒に助言したりすることで、話し合いがより活発になるように工夫する。 ・種目によっては繋がるかや類似する部分があることを伝え、具体的にどのように活かしているかを考える活動を取り入れる。</p>
<p>(第3学年) ・自らの課題やチームの課題を発見し、解決できるように話し合いの時間を多く取り入れていく。その際に掲示物やタブレット等を活用したり、運動の得意な生徒が苦手な生徒に助言したりすることで、話し合いがより活発になるように工夫する。 ・話し合いの際に、オリジナルの練習方法や、工夫した作戦を考える活動を取り入れる。</p>

## 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名 ( 技術 ) 指導者名 ( 神 岬 )

### 生徒の状況・課題の分析

#### (第1学年)

授業、実習への興味関心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。班員同士で協力し、より良い道具の使い方を考えたり、より良い作品を作るために努力したりする姿勢が見られる。積極的に声を掛け合い、注意しあう生徒と、自分からは声をかけづらい生徒、自分だけに集中している生徒がいる。自分や班の課題を発見し、工夫する力を身につけさせる。

#### (第2学年)

授業、実習への興味関心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。2学年で行うエネルギー変換の分野は理科と重なる部分も多く、苦手意識をもつ生徒もいる。疑問や分からないことを自分から声に出せない生徒もいるので、班での話し合いで個の意見を出せる場面をつくり、課題を発見し、工夫し創造する力を身につけさせる。

#### (第3学年)

授業、実習への興味関心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。一方、実習と座学の意欲の差が大きい生徒もいるので、座学においてもグループワークや話し合いの場を増やし、新たな事実を発見し、自らの生活に還元できるようにさせる。

### 教科の目指す育てたい力

- ・生活から発見し、工夫・創造する力
- ・生活に必要な知識・技能

### 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

#### (第1学年)

・自らの生活を振り返り、自分や班の課題を発見し、より良い工夫をできるように、実習を行いながら話し合える時間を作ったり、実習だけではなく話し合った成果を記録できるワークシートを作成したりする。また活動中に助言を行い、話し合いがより活発になるように工夫する。

#### (第2学年)

・自らの生活に取り入れられるように、自分や班の課題を発見し、より良い工夫をできるように、実習を行いながら話し合える時間を作ったり、実習だけではなく話し合った成果を記録できるワークシートを作成したりする。また、活動中に助言を行い、話し合いがより活発になるように工夫する。

#### (第3学年)

・2学期以降はグループ活動を行う場面が増えるので、自分や班の課題を発見し、より良い工夫をできるように、実習を行いながら話し合える時間を作ったり、実習だけではなく話し合った成果を記録できるワークシートを作成したりする。また活動中に助言を行い、話し合いがより活発になるように工夫する。



# 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（家庭科） 指導者名（稲垣 英子）

## 生徒の状況・課題の分析

<p>（第1学年） 衣生活分野における製作に対する苦手意識や経験不足が見られるが、意欲的な生徒もたくさんいる。日常生活の中で、衣生活に関する作業を行う機会が少ないこともあって、学習の必要性を感じ取れない様子も時折見受けられる。</p>
<p>（第2学年） ミシンを使った作品の製作に対する苦手意識が見られ、指導が困難な部分もあるが、意欲的な生徒もたくさんいる。日常生活の中で、衣生活に関する作業を行う機会が少ないこともあって、学習の必要性を感じ取れない様子も第1学年同様に見受けられる。</p>
<p>（第3学年） 保育分野を学ぶに当たり、幼児と接する機会がほとんどない生徒も多く実生活の課題と結びつけて捉えることが難しい面がある。</p>

## 教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"><li>・自立して健康な生活を営むために必要な基礎的知識と技術の習得</li><li>・主体的に生活に関わろうとする意欲</li><li>・見通しをもって生活を改善しようとする力</li></ul>
---

## 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>（第1学年） ・衣生活分野における製作を通して基礎的な技術を習得するほか、授業では具体例を多く示すことで理解を深め、実生活と結び付けて考えることができるようにする。さらに住生活分野では単に受けるだけでなく自分でテーマを決め調べて発表するという活動に取り組むことで、思考力、判断力、表現力の育成を目指す。</p>
<p>（第2学年） ・衣生活分野の製作を通してミシンを使用する技術を習得するほか、授業では具体例をたくさん示すことで理解を深め、実生活と結び付けて考えることができるようにする。さらに食生活分野では単に受けるだけでなく、授業における調理実習に取り組むことで、実践力の育成を目指す。</p>
<p>（第3学年） ・絵本の製作と保育実習や調理実習などを通して、授業で学んだことを実生活に結び付けてとらえることや学習への理解を深めるようにする。また生活実践・活用につながる教材の選択や、生徒各自の独創性を表現する場面の設定、家庭実践の課題設定を行っていく。</p>

## 授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（英語） 指導者名（西尾洋士・大木田陽子・高橋乃枝瑠・中山静寿保）

### 生徒の状況・課題の分析

<p>（第1学年）小学校から英語に慣れ親しんでいるため、英語を話す・聞く活動などはほとんどの生徒が積極的に取り組んでいる。帯活動やペアワーク・グループワークなども楽しく取り組んでいる。ただ英語を書くことに不慣れな生徒が多く、スペルミスや語順間違いがとても多い。</p>
<p>（第2学年）ペアワークやグループワークでは、積極的に英語での発話ができている生徒が多い。しかし、一方的な発話になってしまったり、リアクションを適切にとれなかったりすることから、コミュニケーションを取ろうとする態度に課題がある。また、家庭学習などの基本的学習習慣が身につけていないことや既習事項の定着にも課題が見られる。</p>
<p>（第3学年） 多くの生徒が積極的に発言し、英語によるコミュニケーション能力を身につけようと授業に取り組んでいる。また暗唱や課題の提出等は積極的に取り組んでいる。しかし、復習や家庭学習など基本的学習習慣が身につけていない生徒も若干見られる。グループ活動やスピーチなどに意欲的に取り組む反面、人前での発言が少し苦手な生徒もやや見受けられる。</p>

### 教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"><li>・英語を積極的に使い、コミュニケーションを取ろうとする態度。</li><li>・初歩的な英語を使って伝えたいことを表現する力。</li><li>・英語を聞いたり、読んだりして概要を理解する力。</li><li>・英語や外国文化に対しての知識をもち、それを理解する力。</li></ul>
---

### 授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>（第1学年） 帯活動の中に書く活動を取り入れ、授業の中で英語を書いて表現する時間を取っていく。その中で、すでに学習した内容を復習することにもつなげていく。またその書いた英語の内容を話す活動につなげるなどして、幅をもたせた活動を行っていききたい。</p>
<p>（第2学年）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・帯活動などで、会話を継続させたり膨らませたりするために必要な表現を繰り返し使わせる。</li><li>・自ら課題を見つけて取り組む場面を授業内に設定し、家庭学習の習慣へつなげる。</li><li>・単元ごとにテストを実施することにより、既習言語材料の定着が図られているかを自覚できるようにする。</li><li>・提出期限を意識させるような掲示や指示を工夫する。</li></ul>
<p>（第3学年）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・既習事項を常に復習させながら繰り返し指導していく。</li><li>・授業の中で家庭学習へ繋がる練習などを多く取り入れ、定着を図る。</li><li>・学習意欲の向上や基礎学力定着の為、継続的にスペリングコンテストや小テスト等を実施していく。</li><li>・継続的に音読テストやスピーチを実施し、様々な状況で相手とコミュニケーションをとりながら、基本文型を身に付けさせるように指導していく。</li><li>・授業中に英語に触れる機会を多く持たせ、積極的に活動に取り組む姿勢を高めていく。また、ペアやグループワークを行い、お互いに学びあえる指導の工夫をする。</li></ul>